

2025 年度すくわく活動

2025 年度すくわく活動を終えて：2 つのテーマを持って進めました。
ブログや園だよりでも触れてきましたがここで改めて活動報告をさせていただきます。



■テーマ 1 [自然—木]

昨年度に引き続き子ども達の声活動を繋げて 2 年目。

- 活動
- 1、森へ行き杉の木の焼き板に挑戦した年長組
 - 2、カプラ制作—十分なカプラがあり意欲的
 - 3、マリンバワーク 森の郵便屋さんが森の不思議とマリンバについて子ども達の心をくすぐって音に目覚めた。
 - 4、音に目覚めた子ども達はマリンバやキーボードで心ウキウキ自分の世界を探索し始め、その後友達と音を合わせる楽しみも気づいていました。

■テーマ 2 [光]

保育時間の中で朝早くから夜までの保育時間を過ごす子ども達。それぞれの登降園時間は様々である中、窓越しの朝陽から子ども達の遊びが始まりました。

- 活動
- 1、窓越しに光が動く不思議で遊びが発展、色紙でも光を通す不思議に、偶然に偶然が重なり歓声が上がる保育室。他クラスも遊びに来て刺激をもらい真似っこ。
 - 2、季節なって影踏みが始まりました。何人かで面白い動物？が出来たり、手をつないで仲よしぶりが影に映ってウキウキ。
 - 3、もっと暗くしたいと暗闇作り。
 - 4、影絵遊びと劇遊びが重なってランタン使って発表会には保護者様にも見ていただきました。
 - 5、アクリルの BOX に水を入れて乳児は不思議に触れたり、遠くから見たり。
 - 6、影絵遊びのプロが来て色々ワークをしてみたら僕たちの劇もすごかったけど影絵もっとやりたいな。
 - 7、昼に夜に 双眼鏡や 天体望遠鏡で月や星を見たいとチャレンジ。
 - 8、水族館で PC の中に自分たちが取り込んでお魚になったりタコになったり不思議に大笑いの経験。
 - 9、保育園の中に人感センサーをつけて子ども達で小さい友達にも光に気づいてもらおう。
 - 10、シャボン玉って大好き！でも暑い日は壊れてしまうし、光っているけど光じゃない。シャボン玉のワークでは大きい小さいと煙が中に入る不思議、なんだかとっても素敵な気持ちになれる。明るくないと見えなかった。

※こんな体験をすくわくプログラムで進めていくと、

言葉で説明するのではなく一緒に経験して共感したり アイコンタクトで静かに遊びを進めていく姿が改めて新鮮さを感じました。保育者もできるだけリードを取らずにやってみれば？何があればよいのかな？皆で相談して困ったら又、相談に来てみれば？と、子どもの依存心に応えずに見守りながら遊びを実現できるように、言葉や位置に配慮して遊びを継続的にできるように留意をしていった。ワークの先生方の言葉がけはやりたいことを感じてもらう進め方に保育者は子ども達が主体である保育を振りかえる機会となった。

子どもの自己肯定感は「かけられた言葉」で育つ。たった一言の“ことばがけ”が子どもに自信や挑戦する力をプレゼントできる保育者でありたい。気づいたの！その考え方おもしろい！自分で気がついたの！そういうことだったのね！間違えたなら又やってみようか！

子ども達に正解を求めるのではなく“ちゃんと見てもらえている”という実感を感じてもらえる保育者も環境の中のひとつであるのでしょう。子どもが主体の保育と言ってもこの奥深さを言語化するのは難しいですが子ども達の表情に明るさやのびのびとした感じがあるのかと毎日子ども達を見るようにしています。

